



No.238

あごら札幌 連絡先 細田
(011) 644-2927今月通信担当
柏原

《 今月の内容 》

- * 車椅子でモルディブへ 1P
- * よかった! 「トランスジェンダー」の学習会 2P
- * はじめまして 3P
- * 紅茶の時間 4P~5P
- * 本と暮らす 6P~7P * 情報 8P

2001.12.15.発行

通信購読料

1200円 (年間)

車椅子で モルディブへ

高橋芳恵

最近めっきり弱気になった母とモルディブに行ってきた。一人では国内旅行も断られ「旅」だけが趣味の母にとっては淋しいばかり。

「いつまで生きてるのかね～」などと言っている。実際「行きはよいよい、帰りはこわい」で、どこかへ出かけるのも行きは地下鉄、帰りはタクシーなのだ。

モルディブは、インド洋に浮かぶ大小1200（人が住んでいるのは200）の島々からなるイスラム教の国。つい2ヶ月前、アフガニスタンへ向け空爆していた米軍の基地から1000kmしか離れていない。しかし1000kmも離れているから出かけることにした。1つの島に飛行場が、1つの島は首都だけ、1つの島にはリゾート、というような国。千歳空港に着いた時から車椅子を借り、次々と借り替えて、モルディブ到着。モルディブは砂地で車椅子は無理、と勝手に思いこんでいたが、出迎えてくれた日本人ガイドの人の「ホテルでも借りられるようにしましょう」の一言で、より快適なモルディブ滞在となった。島では、きれいな海と、足元まで寄ってくる沢山のきれいな魚、白い砂地の白いカニの他、真っ赤な鳥やトカゲを見た。母も水着にパレオをまとい、とても85才とは思えぬ「美しさ？」だった。

私は青い空と青い海に囲まれて考えた。「軍隊とフェミニズム」について。そして、「スモッグの下でのピフテキよりも青空の下でおにぎりを」というふうに自分の考えが、10年前と変わったことを認識した。この件については、次号で詳しく述べたいと思う。



よかった！

トランスジェンダー(性同一性障害)の学習会

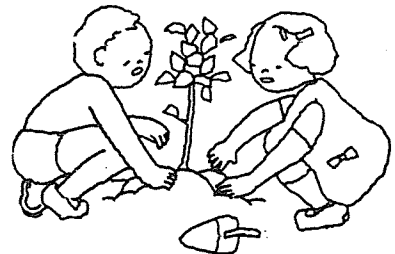
私は性教育の学習グループに属している。今回、トランスジェンダー(性同一性障害)の学習会を行った。講師はピーナツハート副代表の松井多美さん。生物学的には男性だったが、今は女性として生きている。当事者の立場から1時間話をして、その後質疑応答。講師の話はよく整理されており、とても良い雰囲気ではすすんだ。

主催者としては、せっかく講師を呼んでいるのに10数名の参加だったらどうしようと心配していたのだが、ふたをあけたら盛況(30名)で、まずはホッとした。新聞を見ての参加者も多く、それだけ関心の高いテーマだったのだと思う。またあまり表に出てこないけど隠れた当事者は結構多いのではないかと感じた。

トランスジェンダーとは身体的な性(生物学的な性)と精神的な性(性自認)が一致せず、精神的な性にあわせた生き方をしようとしている人。埼玉医大での性別再指定手術のことがきっかけで、この性同一性障害の事もマスコミで少しずつ取り上げられるようになってきた。しかしカミングアウトしている人はまだ少なく、札幌では松井さんが初めてではないかと思う。個人史を交えながら、用語の説明や当事者の今おかれている状況、さまざまな困難点等を詳しく話してくれた。心を偽って生物学的な性である「男」として生きていたときの苦悩。苦痛がつのり、ついには性器を自らつぶそうとしたこともあったとか。淡々としゃべっていたが、相当な苦悩、葛藤を乗り越えて、今があるのだろうと思った。それにしても埼玉医大での手術は6~7年待ちだという話にはビックリ！待てずにヤミや海外に行く者も多いとの事。

松井さんは昨年末、同性愛の人達と共に「バリアフリー社会をめざす少数派と女性の会ピーナツハート」を立ち上げ活動している。“らしさ”に息苦しさを感じている人、夫の暴力に悩んでいる人、同性愛の人、身体の性と反対の性で生きたい人等に呼びかけ、毎月1回例会を開き、電話相談も行っている。

同じ悩みを持つ人(あるいはそれを乗り越えた人)同士が集える場所があるのは大切な事だと思う。学校等、集団の中には必ず性的少数者はいると思うので、これを機会にピーナツハート等の活動を皆に知らせていきたいと思った。(細田英理子)



はじめまして♡♡♡



念願の北海道移住を果たし、北の大地の感動に酔いしれるまもなく、記録的な大雪の歓迎を受けることとなりました。白銀の世界に包まれ、外界から遮断された静寂の中に、新たなる自己の発見を・・・などという深遠な理想は、玄関先の凍りついた雪とともに無残にも打ち砕かれ、除雪ダンプで雪山の中に放り投げられてしまったわけであります。

それにしても海に降る雪はいいですね、積もらなくて・・・

さて、狂気の 20 世紀が終わったからといって、正気の 21 世紀が始まるべくもなく、すでに一年が過ぎようとしているこの現実をどう受け止めたらいいいのか・・・この世界の虚偽と真実は、あらゆる姿に形を変えて襲い掛かってくるような気がしています。昨年末、「たとえ明日嵐が来ようとも、今日 1 本の苗木を植えられるような生き方がしたい」などと、臆面もなく語ってしまったけれども、植えたそばから踏みつけられてしまうような現状を、どうやって打開したらいいのでしょうか。

賢明なる「あごら」の皆様方に今後の指針を得られるのではないかと密かに期待しつつ、札幌での第三の人生を飛躍的に展開させたいものであります。

T u r a r a

「人間は、活動している間は自由であり、その前も後も自由ではない。なぜなら、活動と自由であることは同一だからである。」

ハンナ・アーレント



◆ Turara さん紹介コーナー ◆

「札幌に行ったら、タニユリコがおるっちゃ！」ということで、富山のあごら通信会員の U さんから Turara さんを紹介された。室蘭のつぶ庵の会員にもなってくれた。

事務能力バツグン、料理上手（ケータリング）も受けまアース。よろしく。」

紅茶の時間

冬のスポーツの筆頭は、何と言っても「雪かき」である。3日間で1mを越す積雪。除雪車が行った後は、勿論倍になる。朝起きたら巨大なスノーマンが3人、窓の外に立っていた。松の木が雪化粧をして立っていた次第。ご近所が総出で雪かきとなり、犬や猫ちゃんの話から、入院しているおじいちゃんの様子など、近所のコミュニケーションの場にもなる。歌にありました。「雪、雪、降り降り降れ降れ」と降れ。(雨だったかな。でも、もう降らないで欲しいヨ)



〈自衛隊が戦場に派兵する国〉

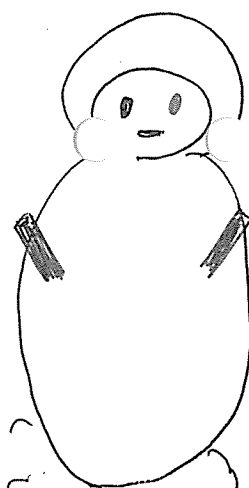
北星学園女子中学、高校で、元・海兵隊員のアレックス・ネリンさん。現実の戦争がどんなにむごたらしいものか、ベトナムでの体験を話し、今回のプロ事件をどう考へるか講演した。戦争映画はヒーローが女や子どもを助けたりするシーンがあるが、本当の戦争は、死臭が鼻につき息が出来ない、むごたらしさ以外の何もかもない事などを命がかりで話した。思いがけず、出産に出会い、人間ではなく鬼だと教えられていたベトナム人の赤ちゃんを手で受けてから、戦争に疑問を抱き、脱隊をした話。米政府は、アフガニスタンの人、人間だとは思っていない。ベトナムやイラクなどでもそうだったように、とも話した。アレックスの話は、何度も聞いた。今回も思わず泣いてしまった。講演の後には、昔の自分を思い出して、苦しみ耐える夜となる。自分をなぐさめるためにギターをいつも持ってきている。今回も講演後、ギターと歌を披露し、ウケていた。

講演の後、「ホーイフレッドが自衛隊に入るといっていたけど絶対に止めさせる」と報告に来た高校生がいたとのこと。

北星学園では、生徒会から、日の丸君が代拒否宣言したり、アレックスの講演会を学校が企画したりと、公立では考へられず、平和教育をしている。公立での苦戦は、リカが目立つ時々に、エールを送りたいと思う。

〈日本人の戦争体験無責任論〉

アレックスは、戦争参加を、自分個人の事として語っている。PXリカの構造的暴力—負い—の由、海兵隊志願の実態も冷静に

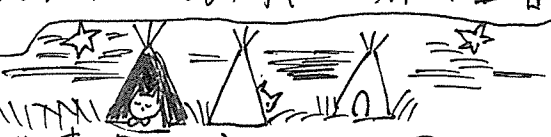


見据えてはいるが、自分も戦場で行った事実を風化していない。京都女子大学で比較文化精神医学を研究している、野田正彰さんによると、日本人は、南京虐殺を行った兵士たちの記録などにも見られるように、自分の残虐性を月や風の風流にすり替えて歌にしている。勿論、アメリカでもアレックスのような人は絶対的にいない。ドイツでもナチに加盟した人の口は重いと聞く。(しかし、これでいいのだろうか、という思いは、私の中でふくらむ。自衛隊が海外に派兵すること、70代、80代の先輩は、どう思っているのか。自分たちも「集団の責任」として、風化しているこの問題を聞いていきたいと、今、考へているところである。

〈ルイス"その旅立ち" — 伊藤ルイスさんの映画上映会に500人!〉お陰様で、沢山の人が集って下さった。今、あらためて、ルイスさんに残っていたものの大きさをかみしめている。

鎌田慧さんの言葉から... 「組織には属さず、ひいては全国の市民運動の場へ足を運んでいた。それは組織がおこなう運動ではなく、個と個が結びつく、人間的なネットワークだった。(中略) ルイスさんはひいては「やり」と歩いていた。激しさを静けさに覆われていて、不思議な魅力があった。全国の市民運動を支えている人たちにファンが多かった。」ルイス"映画パンフレット" 藤原智子 監督も、とてつもない人でした。1932年生まれと聞いても、とてつもない若さ...精神の方。「組織に頼ってはいけませんよ!」と気力に満ちあふれている。日本にも、女性の監督が沢山、生まれてほしいと願う。

つぶ"庵"だお! 空蘭の古家と山荘とで解放する事に! 〇〇庵にしたいと思っていたら、某山から屋のYさんが、「つぶ"庵"でもコリアンでも」と言ったので、つぶ"庵"とする事に。冬は、パチパチという薪ストーブの音に耳を聞きながら、読書三昧。夏は、マイティヒコを立てて、星を見ながら眠る。皆様の、どうぞ、お連れ下さりませ。—谷崎子記—



本と暮らす

小松 ともみ

(18) 「落語百選」 (春・夏・秋・冬)

麻生芳伸 編

筑摩書房 (ちくま文庫)

これを書いているのが2001年10月上旬ですが、ほんとにほんとに世の中ひどいことになっちゃってますねえ。ずーっと続く不景気とリストラの嵐、失業者の爆発的増大、「痛みを伴う構造改革」とやら称してますます弱者イジメがひどくなる小泉政治、それに加えてアメリカの同時多発テロ、「同盟国として自衛隊を後方支援に派遣する」と勝手に独走する小泉ライオン、どさくさに紛れて有事立法 (自衛隊法改定) をすすめる動き、またしても無策のまま闇のなかに蔓延させられた狂牛病、大雨を降らせては続けざまに発生する台風、「ゆとり教育」とやら称してますます選別差別を推し進めそうな教育「改革」、市民の良識のおかげで採用率1%未満におさまったものの養護学校などに押しつけられた「新しい歴史」教科書……………。

恐慌と戦争の渦のなかに否応なしに引きずりこまれていく感じで、ささやかながら、いろんな反対署名をしても、自分がうつ状態のせいもあるのですが、「焼石に水」という印象をぬぐい去ることができません。

実は、私の勤務する病院も大嵐のまっただなかです。直接的には「これから団塊の世代が集団的に退職していくのに このままの経営状況ではこれまでどおりの退職金は払えない」という話で、この10月から退職金率も大幅に引き下げられ、さらに「どの病院も黒字を出すように医療・経営構造を転換する」という流れから出てきたのですが、なんとたった一つの精神神経科病棟を閉鎖する、という決断を理事会が下したので
す……………。



これまでずっと、精神科は一般科と差別された診療報酬体系のもとでやってきました。このコーナーで以前にも紹介したように (「正しい精神科のかかり方」のとき)、一般科の約半分という低い入院診療報酬に「見あうように」、病院として認められる医師の定数も、一般科は患者さん16名に医師1名なのに精神科は

48名に対して1名でいい（ただし単科精神病院以外では16名に1名を守る必要あり）という事実ひとつとっても、うちの病院をはじめとする総合病院内の精神科病棟は構造的な赤字状態を宿命づけられていたと言えます。その証拠に、うちの病棟が閉鎖される数年前から、道内の日赤が経営主体の総合病院での精神科病棟の閉鎖や縮小ラッシュが続いています。うちの病棟が閉鎖されると、札幌市内では単科精神病院以外で精神科病棟を持っているのは国立北大病院と道立札幌医大病院だけとなります。



とにかく、日常診療を継続しながら病棟ひとつを閉鎖する、ということは大変なことです。今現在入院している患者さんだけが入院ベッドを必要としているのではなく、「いざとなったら入院できる」「冬になったら入院できる」という保障があるから、かろうじて地域で外来に通いながら頑張っている患者さんだっただけたくさんいるんです。入院の患者さんの衝撃はもとより、外来の患者さんも大ショックです。そうした動揺や怒り・悲しみといった感情をきちっと受け止めて、いっしょに乗り越えていく作業が必要です。入院患者さんへの説明会、主に家族の方への説明会を開きました。外来患者さんにはひとりひとり文書を手渡しして看護婦が中心に説明しました。それだけでは説明が不十分とおもわれるケースには家族の方あてに文書の郵送もしました。「外来もなくなっちゃう」という噂に動揺する患者さん達に「そんなことは、ここに掲示してあるように絶対ないよ。私はずっとこの外来に出ていますよ」と安心させてあげたりもします。もちろん入院治療の継続が必要な患者さんの転院先さがしも、ひとやま越えましたが苦勞しています。軽勤務（当直・残業免除）で病棟担当をはずれている私もあちこちに電話をして、断られたり、やっと引き受けてもらえたり……。それ以外にも病棟とリンクして動いていた外来の治療プログラムをどう編成しなおすのか、スタッフはどう動くのか、問題は山積みです。この状況になってから、わたしの飲む薬の量が増えました。それでなんとか勤務を続けている感じです。

だから、落語なんです。フェミニストの私は遊郭関係の話などは「これが江戸文化」と言われても「さようございますか」と好きにはなれません。噺家の世界がひどい男社会（落語協会ではじめての真打昇進おめでとう！林家きく姫さん）のも気に入りません。でも、今の心理的八方ふさがり状態の私には、生の落語を聴いているひとにとっては面白さが10%くらいのこの活字落語でも、救いです。

INFORMATION

★ 12月18日(火) ①14:30～ ②18:30～

日本アフガニスタン合作記録映画

「よみがえれカレーズ」 戦争だけではないアフガニスタンを見たい・・・

16ミリ・カラー/1989年度作品/116分

会場：札幌市教育文化会館・講堂（北1西13）前売800円/当日券1000円

主催：さっぽろ自由学校「遊」TEL011-252-6752

協力：シアターキノ アフガニスタンに平和を！市民連絡会

★〈性教育学習会〉

1月26日(土) 13:30～15:30

「家族からみえてくるジェンダー」

林美恵子さん(札幌国際大学助教授)

場所：経済センタービル7F(北1西2)

主催：性教協いしかりサークル(詳細は 細田 011-644-2927)

★〈さっぽろ自由学校「遊」〉

【労働・雇用環境の変化と人権】

2002年1月29日(火) 開講 隔週火曜18:30～20:30 全6回

場 所：さっぽろ自由学校「遊」札幌市中央区南1西5愛生館ビル2F

受講料：通し6000円(学生4800円)単発1500円(会員・学生1000円)

申込み：「遊」事務局 TEL 011-252-6752 FAX 011-252-6751

☆ 1月29日(火)

「道内の労働・雇用状況の実態～リストラ、失業、就職難～」

講師：鈴木一(すずき はじめ)札幌地域労組専従

☆ 2月12日(火)

「労働相談の現場から～職場での闘い方～」

講師：工藤仁美(くどう ひとみ)札幌パートユニオン専従

☆ 2月26日(火)

「職場における女性の人権」

講師：秀島ゆかり(ひでしま ゆかり)弁護士

あと
から
★

(25年ぶり(くらい)の大雪! バスもJRも大混乱。
まだ12月なのに、これから先どーなるの?
今年のあごらの忘年会はHさんのケータリング。フアン
ス料理のフルコース なのだ。おいしいもの頂いて、冬の
寒さをふき飛ばそう! 2001年は、大変な年だった。
来年こそ、戦争のない平和な年にと願っつよお年を
やりこ

